

「レストラン」編
その1: @ オスロ



非日系 「LuLu(ルル)」

- 日本人客濃度≒0%
- 日本人スタッフ濃度=0%
- 日本酒オーダー比率≒30%

- ノルウェーの首都オスロには日本酒の飲める日本食レストランやバーがいくつかある。「ルル」は日本食のカテゴリーではなく、日本食を取り入れたアジアフュージョンのお店。料理はシェフのお任せ。
- オスロ在住で日本酒のエducーターやコーディネーターをされている石井香織さんにこの店を教えていただき、ご一緒した。お酒(秋田清酒「ぬぐた丸」)をついでくれている女性(お店のスタッフ)は、石井さんに日本酒について習ったのだそう。
- サケメニュー。上から、滋賀・太田酒造、奈良・美吉野醸造、千葉・寺田本家、福井・一本義、京都・木下酒造、福岡・杜の蔵、和歌山・平和酒造、京都・向井酒造、、、など、凝った取り揃え。精米歩合のほか、「nutty & spicy」「oxidized(!) & nutty」「silky & chocolatey(!)」などと、選択の目安がわかりやすく書かれる。メニューにないサケ銘柄も多数(後述)。
- 6cl(60cc)で、100~150NOK = 1,300~1,900円(1NOK=12.5円で換算)とは高価だが、北欧、中でもノルウェーはアルコール飲料が高いことで有名。レストランで気軽なワインを1本飲んでも5,000円はくだらない。

サケ WATCHING IN

オスロ ストックホルム
OSLO & STOCKHOLM

2019 +

2019年6月、ノルウェーとスウェーデンに出張した時立ち寄った日本酒のお店のレポート。

付属資料
北欧4か国の
酒類専売事情



6clの価格は、概ね、
100~150ノルウェークローネ

Our Sake Menu					
Expression	Name	Producer	Prefecture	Type	Rice Price Polish 6cl
fruity & silky	Kokoro	Ota Shuzo	Shiga	Junmai Nama	70% 100 .-
woody	Tarumaru	Miyoshino Jozo	Nara	Taruzake Junmai	70% 152 .-
acidic & unfiltered	Dakushu	Okura Honke	Nara	Bodaimoto Muroka NG	60% 106 .-
sparkling & yeasty	Musubi	Terada Honke	Chiba	Bodaimoto Junmai Muroka NG	100% 126 .-
yeasty & sweet/Sour	Daigo No Shizuku	Terada Honke	Chiba	Bodaimoto Junmai Muroka NG	90% 136 .-
rough & rich	Katori 90	Terada Honke	Chiba	Muroka Junmai NG	90% 126 .-
clean & delicate	Denshin Rin	Ippongi Kubo Hont	Fukui	Junmai Daiginjo	45% 154 .-
strong & rich	Tamagawa Yamahai	Kinoshita Shozu	Kyoto	Yamahai Junmai NG	66% 135 .-
light & nutty	Yanwari	Kinoshita Shozu	Kyoto	Yamahai Junmai	66% 104 .-
nutty & spicy	Tamagawa Kimoto	Kinoshita Shozu	Kyoto	Kimoto Junmai NG	77% 150 .-
acidic & fruity	Soma No Tengu	Uehara Shuzo	Shiga	Junmai Ginjo Muroka NG Usunigori	59% 135 .-
plum & herb	Shiso Umeshu	Mori No Kura	Fukuoka	Umeshu-Sake	N.A 102 .-
sour plum	Suppai Umeshu	Heiwa Shuzo	Wakayama	Koshu Umeshu-Sake	N.A 145 .-
thick creamy plum	Tsuru Ume Nigori	Heiwa Shuzo	Wakayama	Nigori Umeshu-Sake	N.A 148 .-
acidic mandarin	Natsu Mikan	Heiwa Shuzo	Wakayama	Mandarin-Sake	N.A 110 .-
acidic citrus	Yuzushu	Heiwa Shuzo	Wakayama	Yuzu-Sake	N.A 108 .-
sweet & smoky	Ine Mankai	Mukai Shuzo	Kyoto	Junmai	70% 118 .-
fruity & clean	Kizan	Chiguma Nishiki	Nagano	Junmai Ginjo Nama	55% 112 .-
acidic & unfiltered	Kizan Nigori	Chiguma Nishiki	Nagano	Junmai Ginjo Nama Nigori	55% 112 .-
silky & chocolatey	Mutemuka	Kochi	Kochi	Mutemuka Shuzo	70% 114 .-
fruity & silky	Furosens Nakagumi	Uehara Shuzo	Shiga	Muroka Junmai Ginjo Nama Genshu	55% 124 .-
oxidised plum	Mii No Umeshu	Inoue Gomei	Fukuoka	Koshu Umeshu-Sake	N.A 100 .-
oxidised & nutty	Biden 1999	Inoue Gomei	Fukuoka	Koshu Junmai Yamahai	65% 124 .-
light & simple	Karatamba	Ozeki	Hyogo	Honjozo	70% 90 .-



- この日飲んだ日本酒は、写真の8銘柄。
- 8銘柄の中で前ページのメニューから価格がわかるのは以下:

- 寺田本家「むすび」126NOK = 1,600円
- 木下酒造「玉川・生酛」150NOK = 1,900円
- 無手無冠「無手無冠」114NOK = 1,400円

ワイングラスに入れた60ccは、写真のような量。「むすび」は「菩提酛」(！)と書かれていたので初めて飲んだのだが、とてもサワリー(soury)なお酒だった。オランダの「YOIGOKOCHI」社(次ページ)は、マニアックな日本酒を入れているようだ。

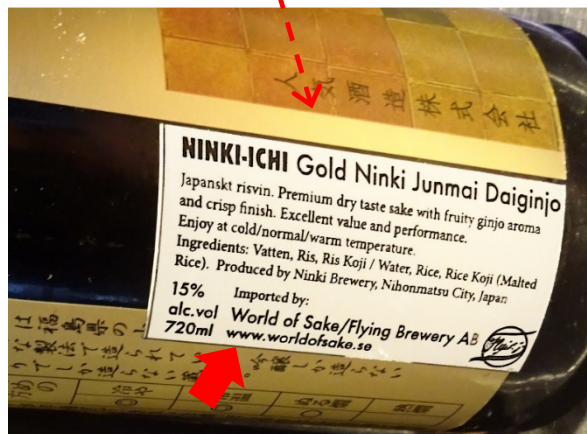
- 飲んだお酒のうち、前ページのメニューにない銘柄は:

- 加越酒造「加賀の月」
- 人気酒造「人気一」
- 秋田清酒「刈穂」(2種類)
- 秋田清酒「ぬぐた丸」

それほど回転率は高くないのだろう、古い日付のものもあったが、冷蔵保管のせいか品質は悪くない。それぞれの価格 は、、、記録していなかった。

- お酒(「刈穂」)をつがれている女性が石井香織さん。大変お世話になり、ありがとうございました。2018年までノルウェーで清酒を醸造していたヌグネの仕事もされていたそう。





● 裏ラベルを観察。3つのインポーターがあった。

- 「玉川」は、オランダの「YOIGOKOCHI(酔い心地)」社から、オランダ経由でノルウェーに入る
- 「人気ー」は、スウェーデンの「World of Sake」社から、スウェーデン経由でノルウェーに入る
- 「秋田清酒」は、(裏ラベルに表示がないが)ノルウェーのボーナム・ベヴァレジ社がインポーターで、直接ノルウェーに入る限られた銘柄

石井さんによれば、他にも、JFC社がインポーターの銘柄もあるそう。最終的な販売は、すべてノルウェーの酒類専売会社「Vinmonopolet」社(後述)が行う。

● 因みに、財務省貿易統計で2018年の3か国への清酒輸出実績を見ると、こんな具合。

- オランダ: 223KL(1,240石)、1億6,100万円、1.8L単価を計算すると1,305円
- スウェーデン: 33KL(180石)、4,310万円、1.8L単価2,382円
- ノルウェー: 2.5KL(14石)、315万円、1.8L単価2,297円

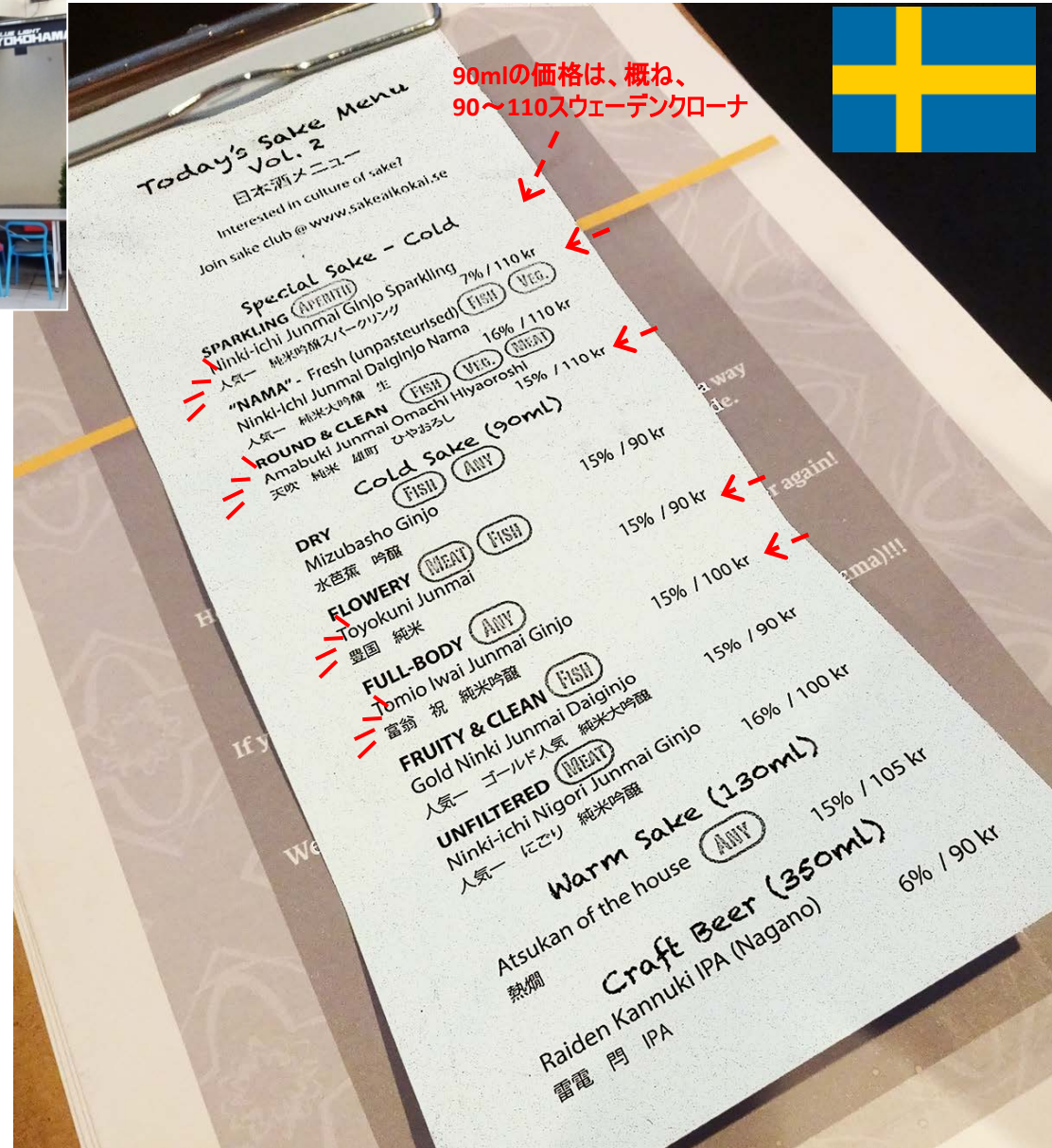
輸入量をざっくり丸めると、[オランダ:スウェーデン:ノルウェー]=[100:10:1]。オランダが多いのは、日本との歴史的つながりもあるが、ロッテルダム港を擁するので、EUやEEA圏内に再輸出される商品も多いから。オランダは近年、日本ウイスキーのEU圏の輸入基地にもなっている。



日系「ブルーライトヨコハマ」

- 日本人客集中度≒20%
- 日本人スタッフ集中度≒70%
- 日本酒オーダー比率≒30%

- スウェーデンの首都ストックホルムは大都市。オスロ以上に日本酒の飲める店は多い。だが、日本人料理人で日本語が通じるお店は限られる。「ブルーライトヨコハマ」は、2012年開業の日系の居酒屋的日本食店。オーナーのカラオケの十八番が、店名の由来だそう。(今やご存知ない方が多いかもしれないが、半世紀前の、いしだあゆみのヒット曲の名前)
- 「Today's Sake」という日本酒メニュー。入荷したものをリストにするようだ。上から、「人気ー」、「天吹」、「水芭蕉」、「豊国」、「富翁」など。お酒をお店に卸しているのは、スウェーデンの「World of Sake」社。
- 価格は90mlで、90～110SEK = 1,000～1,300円 (1SEK = 11.5円で換算)。高価だが、ノルウェーよりは相当安い。
- 茄子田楽、枝豆、揚げ出し豆腐などの日本料理で、日本酒を大変おいしくいただきました。
- 訪れた日の夜(上の写真のお店の概観は昼のようだが、実際は夜9時過ぎ)、日本人客は当方だけだったが、日本的に美味しいお料理の味からして、たぶん現地在住日本人や日本人旅行客が利用しているだろうと思い「日本人客集中度20%」とした。日本酒を飲んでいるグループは当方以外に1つ(現地の人たち)だったこと、日本酒メニューの内容などを勘案し「日本酒オーダー比率30%」としました。





小生、90mlはすぐ飲んでしまう
「サケ呑み」故、一度に2桁注文
して一合にして飲む、の図

- 日本酒のサービスは、「客席で、枡に入れたグラスに720mlびんから注ぎ、枡にあふれるように注ぐ」方式。日本の居酒屋でよくあるこの方式は、海外での日本酒普及によくないという意見もあるが、個人的には好きなスタイルである。
- この日飲んだ日本酒は、こんな銘柄。前ページのメニューから価格も掲載(1SEK = 11.5円で換算、90mlの価格) :
 - 「人気一・純米大吟醸」110SEK = 1,300円
 - 「天吹・純米」110SEK = 1,300円
 - 「豊国・純米」90SEK = 1,000円
 - 「富翁」100SEK = 1,150円
 - 「サッポロビール」330mlびん 70SEK = 800円
- サッポロのラベルを観察。ディストリビューターは英国の丸紅。ギッシリ文字が書いてあるのは、EUの各国語で「醸造とびん詰めは、、、」と書いているからで、最後は英語で「サッポロのライセンス下でEU内で製造」とだけ結ばれている。具体的な生産国や委託先企業名は記載されない。(EU域内で売られる日本ブランドビールは、キリン一番が「ドイツ製、ヴァイエンステファンで製造」と生産国・委託先企業名の両方を記載、アサヒ・スーパードライは「チェコ製」「英国製」と生産国は記載する(2か国で委託される)が、委託先企業名は記載していない。なお、サントリーやオリオンも、最近ヨーロッパで出回り始めているが、日本製である。)



VINMONOPOLET

- ノルウェーでは、アルコール飲料の小売りは「VINMONOPOLET」（ヴァインモノポレット、ワイン独占店の意）という専売店に限られる。
- ヴァインモノポレットは1922年設立で、その歴史は古い。左の2枚の写真はオスロの「ノルウェー民族博物館」の中に、昔の（多分戦前の）ヴァインモノポレットが移築・再現されていたので、それを撮影したもの。外からサケが見えないようになっている。（今も北欧では、そういうルールを残す国もあるよう）
- 右の写真（ネットから取得）は、現在のヴァインモノポレット。ノルウェー市民は、お酒が買いたいとき、各都市にあるこの店で購入することになる。



- ただし、「アルコール度数4.7%未満」は、ヴィンモノポレットではなく、スーパーや一般店舗でも販売される。右の写真は、オスロ中央駅に接続するショッピングモールのコンビニエンス店のサケ売り場の様子。ビール、シードル、RTDが並ぶが、ワインやスピリッツはない。
- ラベルを見ると、全商品がアルコール4.5%。ハイネケンは通常は5%だと思うので、ノルウェー向けに度数を落としているのだろう。
- 写真の製品の価格は以下の通り。日本のビールは国際的には高い方だが、日本の2倍以上、という感じだろう。
 - ハイネケンビール: 37NOK / 330mlびん = 460円
 - コロナビール: 37NOK / 355 mlびん = 460円
 - サマースビー(デンマークのシードル): 37NOK / 500 ml缶 = 460円





- デンマークを除く北欧4か国では、アルコール飲料は専売。レストラン、バーなどでの飲酒はもちろんできるが、持ち帰りのアルコール飲料は国営に準じる専売店でしか買えない。専売の主目的はアルコール消費を減らすこと、未成年者の飲酒を防ぐこと。19世紀後半から20世紀初頭の市民の大量飲酒による社会的・健康的弊害の反動で、禁酒法やアルコール制限を実施した歴史的経緯が専売制度設立の背景になっている。（4か国とも禁酒法や制限法は1910年代に始まっていて、有名なアメリカの禁酒法prohibitionー1920年からーより早い。）
- アルコール消費を減らすのが目的なので、北欧4か国のお酒の販売価格は非常に高い。専売店は店舗数も限られ、営業時間も制限されている。酒類の広告やブランドマーケティングも制限されていることが多い。国が決めた低アルコール（一定度数以下）のビールなどは、専売店以外のスーパーやコンビニエンスストアでも販売されるが、それも夜間や日曜は販売禁止である。
- 北欧の酒類専売制度は、1990年代、EUやEEAの規則違反と指摘されたが、結局存続している。EU域内は自由経済圏なので、市民は隣国に安い酒を買い出しに行く、という問題もあるが、少なくとも国内での酒類販売は他のEU諸国と違って厳格にコントロールされている。
- 北欧の国の中でデンマークだけ酒類制限がないのは不思議に感じるかもしれないが、デンマークは世界4位の巨大ビール企業、カールスバーグを擁するビール国家であるから当然なのだろう。
- なお、北欧4か国以外で酒類販売が専売なのは、主要国ではカナダがある。オンタリオ州：LCBO、BC州：BC Liquorstores、ケベック州：SAQなど、（英語圏・フランス語圏にかかわらず）州政府専売であることが多い。近年、州によっては規制が徐々に緩んでいるようで、お酒を販売する民間の店も出始めているが、基本的には州政府がコントロールしているようだ。

	ノルウェー 	スウェーデン 	フィンランド 	アイスランド 	デンマーク 
酒販専売店と、 専売品の範囲	Vinmonopolet (ヴァインモノポレット)  VINMONOPOLET	System Bolaget (システムボラゲット) 	Alko (アルコ) 	Vinbudin (ヴァインブージン)  VÍNBUÐIN	 なし
	4.7%ABV以上の酒類	3.5%ABV超えの酒類 (戦後4.5%だったが、飲酒が問題化して3.5%に引き下げた)	5.5%ABV超えの酒類	2.25%ABV以上の酒類	
	1922年設立	1955年設立	1932年設立	1961年設立	
専売店以外で 販売できるお酒	4.5%以下のビール、シードル、RTDなど	3.5%以下のビールなど	5.5%以下のビールなど(2018年、4.7%から5.5%に緩和)	2.25%未満のビールなど	
禁酒法の歴史	1916年から1927年まで蒸留酒が禁止、1917年から1923年まで酒精強化ワインとビールが禁止	1914年から1955年まで配給制度によって酒類が制限、ただし禁酒法はなかった	1919年から1932年までアルコール飲料が禁止	1915年からアルコール飲料が禁止、1922年にワインが解禁、1935年にビールを除くアルコール飲料が解禁。2.25%を超えるビールは1989年まで制限された。	
EU	非加盟	加盟	加盟	非加盟	加盟